

受益者の皆様へ

**ゴールドマン・サックス 日本株式マーケット・ニュートラル・ファンド**  
**(愛称:GS ジャパン・ニュートラル)**  
**8月8日および9日の基準価額の値動きについて**

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ゴールドマン・サックス 日本株式マーケット・ニュートラル・ファンド(愛称:GS ジャパン・ニュートラル)の8月8日の基準価額は、前日比-1.78% (-204円)の下落となり、8月9日の基準価額は、前日比 - 4.02% (-452円)の下落となりました。その背景を下記にご説明いたします。

**8月8日および9日の日本株式市場について**

8月8日の日本株式市場は小幅の上昇となり、東証株価指数(TOPIX)は+0.53%の上昇となりました。8日の株式市場における特徴的な動きとしては、メガバンクをはじめとする銀行株や、保険業などが軒並み値上がりする一方、同日朝に発表された6月の機械受注統計「船舶・電力を除く民需」において前月比10.4%減少と民間予想を大きく下回るネガティブ・サプライズとなったため、鉄鋼株、海運株、総合商社などの値下がりが目立ちました。年初より金融株が下落するなか、これらの業種は上昇を続けていたため、日本株式市場の下支えとなっていた業種でした。

8月9日の日本株式市場は小幅の上昇となり、東証株価指数(TOPIX)は+0.88%の上昇となりました。9日の株式市場で特徴的であったのは、売買が非常に活発となったことにあります。東京証券取引所が発表した東証1部全体の出来高は 38億1044万株(概算)となり、売買代金も5兆2674億円となりました。メガバンクをはじめとする銀行株や、保険業などが引き続き値上がりする一方、鉄鋼株、海運株などの値下がりが目立ちました。

**ファンドの騰落率について**

当ファンドの運用戦略は、割安度や収益性といった複数の銘柄評価基準からみて、評価の高い銘柄を多数買い持ち(ロング)する一方、評価の低い銘柄を多数売り持ち(ショート)することで、市場全体の騰落の影響を極力避けながらも基準価額の値上がりを目指すものです。

8月8日の日本株式市場では、機械、鉄鋼・金属、海運、化学、総合商社などの業種のなかで、弊社が銘柄評価の結果魅力的であるとして買い持ちとしていた銘柄に値下がりが目立ち、これが同日の基準価額を押し下げる要因になったものと思われます。

8月9日の日本株式市場では、一部のファンドでポジションを解消する動きがあったと見られ、機械、鉄鋼・金属などの業種のなかで、弊社が銘柄評価の結果、魅力的であるとして買い持ちとしていた銘柄に値下がりが目立ち、逆に弊社が売り持ちとしている銘柄が買い上げられたため、9日の基準価額を押し下げる要因になったものと思われます。

米国のサブプライムローン問題を発端とする金融市場の混乱が日本市場にも波及するなか、当ファンドの今後の基準価額においても値動きの荒い展開が想定されます。特に、これまで弊社の銘柄評価において買い持ちとしていた銘柄群が大きく値下がりがする場合、あるいは売り持ちとしていた銘柄群が大きく値上がりする場合には、当ファンドの基準価額を一段と押し下げられる可能性もあるものと考えております。しかしながら、弊社の銘柄評価モデルは、各銘柄の割安度や収益性などの企業業績を重視するものとなっており、一時的に基準価額が大きく下落した場合でも、株式市場の動揺が沈静化するに従い当ファンドの運用戦略の有効性も回復するものと弊社では考えております。